

COUNT DOWN 開校まであと 874日

校長閑話「七中の歴史を振り返って」

生徒会歌

一 仰ぎ見上げる青空の
高く果てなき わが望み
今日より ひたすら 勉学の
けわしき道を進みつ
われら生徒の団結を
希望とともに 固めよう

二 巖うつ波は荒くとも
強く大きなわが意思を
今日より 固い友情に
骨もくだけと むちうちて
われら生徒の団結を
みさおとともに 固めよう

三 広い宇宙に目をあけて
世界の友と語る秋
今日より 励まん 共同の
いばらの道は遠けれど
われら生徒の団結を
誇とともに 固めよう

昭和30年2月11日に香取郡豊里村は銚子市に合併されます。そして、校名も「銚子市立豊里中学校」と確定します。現存する校旗には豊里中学校であった縫い跡が見て取れます。そしてその4年後の昭和34年4月1日に現在の校名「銚子市立第七中学校」に改称されました。

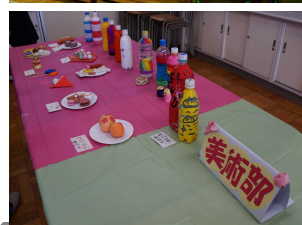
しかしながら、当時はまだ校歌が作成されていなかったことから昭和43年4月30日に現在の校歌が完成披露されるまでの9年間は上記に紹介した「生徒会歌」が校歌の代わりとして様々な儀式で歌われていたようです。今では少なくなりましたが、昭和30年代には各学校で生徒会歌は応援歌として歌っていたようです。近隣では現在でも旭第二中学校が応援歌を校歌とは別に学校行事で歌っています。

10月を振り返って



暑い日々もやっと落ち着き、何をするにも最適な季節を迎えました。先月、27日（土）に平成30年度七中祭を開催しました。「伝統と歩む七中festival 心をついに最高の光を」に込められた、今まで受け継がれてきた伝統を守り全校生徒の心を一つに頑張っていきたいという思いが、発表や展示によく表現されていました。今年度から招待をした豊里小学校の六年生の皆さんにも七中の魅力が十分伝わったことと思います。素晴らしい発表には微笑ましい場面、心が震える場面、熱くなる場面、そして大きな拍手を送りたくなる場面と、会場の一人一人の心を大きな感動で包んでくれました。また、ラウンジや美術室の素晴らしい作品の出来に来校者は心を奪われていました。その七中祭を開催するにあたり、実行委員や生徒会の皆さんは、準備のため毎日、一生懸命に働いてくれました。七中祭の閉会行事では生徒全員で労いの拍手を送りました。

三年生にとっては中学校生活最後の大きな行事でした。それゆえ、体育祭に続き三年生は大変活躍してくれました。一、二年生は先輩の姿を目に焼き付け、心に刻み、良き伝統を引き継いでいこうと決心したようです。



インドはい〜んど！？ ④



日本では秋になると、涼しさも増すことから、勉強や読書そして体を動かすには最適な良い季節と言われています。インドでは「セカンド サマー」として456月に続き、再び夏がやってきます。10月から始まり、ほぼ12月まで続きます。連日40℃を越す猛暑が遠慮なく襲い掛かります。暑さゆえ、乾燥も激しく、唇はすぐに乾き、汗も瞬く間に乾いてしまいます。そこで毎日相当な量の水分を摂取しなければなりません。しかしながら、冷たい水ばかりでは胃腸の負担が大きいので、インド人はチャイ（ミルクティー）をよく飲んでいました。私は自家製麦茶をカブ飲みでした。（つづく）

